

平成31年度 桃源の家拠点事業報告

《特別養護老人ホーム桃源の家事業報告》

1. 事業総括

(1) サービス事業

平成31年度は、安定的な運営に重点を置き事業運営を行いました。しかしながら、年間の退所者が予想以上に増えた事、さらに入院日数も大幅に増えたことで、年間の平均稼働率は当初計画97%に対し実績は92%となり計画を大きく下回る結果となりました。

人材確保については、職員間での情報共有や法人で委員会を立ち上げていただき人材確保に取り組みました。思うような成果には繋がりませんでした。法人の取り組みは今後の人材確保に向けての足掛かりになると期待しています。

地域交流を通じたサービスの実践や委員会を中心としたサービス提供に努めました。特に、看取り介護、口腔ケアを施設の特色とし、事業所全体で実践したことにより、看取りについては年間19件の実績をあげることができ、口腔ケアは引き続いて、公立邑智病院の協力を受け、歯科衛生士による定期的な実践指導の結果、各職員の口腔ケアに対する意識の向上に繋がりました。

苦情解決および相談事業については、事例が発生した場合は迅速かつ的確な対応に心がけ対応した結果、大きな事例には至りませんでした。

しかし、今年度は職員の入居者に対する虐待事例が発生し、ご利用者およびご家族の方々には多大なるご迷惑をお掛けしたことを深くお詫びし、今後二度とこのような事例が発生しないよう全職員でしっかりと対策を実施し運営いたします。

(2) 人材育成事業

定例の事業所内研修においては、勤務の都合を配慮し同じ研修を月2回実施することにより、全職員ができる限り月1回は研修に参加できる体制づくりに努めました。

又、施設外で実施される各種研修会にもそれぞれの立場で積極的に参加し自己研鑽に努めました。

(3) 施設整備事業

主なものとして、環境整備で施設周囲の除草作業を年2回業者へ委託して実施し、施設内整備として居室内手すりの取り付け実施等計画通りの設置を行いました。床走行リフトや見守りセンサーなどの介護機器の導入については、使用頻度（場面）や必要性などの観点から導入を実施いたしませんでした。

また、2年間レンタル契約にて使用しておりました「ロボスーツ」についても、長時間の同一作業実施時には使用効果が期待できましたが、介護現場での様々な作業場面では機器着脱のわずらわしさ感などの意見もあり、レンタル期間満了にて使用を終了いたしました。

平成31年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

計画上の事業	実施した内容・成果等
個別援助計画・ケアプラン	<p>入居者個々のQOL向上を目指し、施設サービス計画を立案の上、家族に対してもカンファレンスに参加して頂けるよう積極的に働きかけました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月ごとのモニタリングの実施。 ・6か月ごとの24時間シートの見直しの実施。
日常生活の支援と機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・施設サービス計画に基づき、24時間シートを作成の上、入居者の状態にあった支援の実践を行いました。 ・毎日のリハビリ体操 ・整体師による入居者への個別指導（年間16回） ・いきいきクラス会を実施（年間93回） ・音楽の日（年間12回） ・桃源茶屋（年間15回）
入浴の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の状態に合わせ特殊浴槽或いは各ユニットの個浴槽を使い、1週間に2回以上入浴を実施しました。 ・介護負担を軽減すると共に、入居者にもより快適な入浴ができるように努めました。
排泄の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄状況を把握し、適切な排泄環境を提供することを目的とし、おむつ専門業者による指導を通年において実施しました。適正な物品の使用について検証し適正かつ無駄をなくすよう努めました。
口腔ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥や誤嚥性肺炎予防を目的とし、口腔ケアの知識や技術を習得するため昨年に引き続き邑智病院歯科衛生士による月1回の訪問指導を受け実践した結果、実施が難しい症例なども実施できるようになりました。 ・職員指導年間7回
ユニットキッチンと食事支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットキッチンの特色を生かし、楽しみである食事を五感で味わって頂けるよう、ごはん炊き、茶碗洗いなど、家庭的な雰囲気づくりに取り組みました。 ・主食は入居者の希望や身体状況によって、ご飯、粥、パンとし、副食は嚥下困難、その他の身体状況により普通食、キザミ食、ミキサー食、特別食を提供しました。又、「入居者に近い厨房」を目指すため、調理員がユニットに出向き、昼食やおやつを入居者と一緒に作る取り組みをしました。
栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士、栄養士それぞれ1名を配置しました。 ・管理栄養士が栄養ケアマネジメントを実施、入居者の食事の個別対応による個別栄養ケア計画を作成するとともに定期的モニタリングを行ないました。 ・治療食等を必要とする入居者に対しては、医師の処方箋に基づき食事を提供し、療養食の提供を実施しました。
看取り介護（ターミナルケア）	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期、死に至ることが予測された入居者に対し、その身体的、精神的苦痛、苦悩を緩和し、死に至るまでの間、その人が充実した日々の暮らしを営まれるよう努めました。 ・医師をはじめ各職種が連携して、本人又は家族等の希望を聞き、同意を得ながら看取り介護（ターミナルケア）を行いました。 ・看取り加算取得年間19ケース

【人財育成事業】

① 研修 《事業所内研修》

計画上の研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等	
集合研修	全職員	25名	5月	ケアプラン研修 ・計画書作りのポイントや考え方の共通認識を図ることができました。
	全職員	42名	6月	看取り・感染症研修 ・看取りに関する考え方と実施方法を身に付けることを目的に実施することができました。
	全職員	27名	7月	褥瘡防止・排泄ケア研修 ・排泄物品の適切な使用で皮膚トラブルを防ぎ、褥瘡状態ごとの対応方法などの確認と周知を図ることができました。
	全職員	26名	8月	事故防止研修 ・事例を基にした検証と再発防止策について考える場として取り組むことができました。
	全職員	28名	9月	身体拘束・虐待防止研修 ・身体拘束を実施する場合の取り決め事項の確認と虐待に関するチェックの実施をすることができました。
	全職員	27名	10月	口腔ケア研修 ・歯科衛生士の指導に基づいた、実施方法の周知と症例を基にした検討の実施に繋がりました。
	全職員	46名	11月	感染症研修 ・感染症時期に合わせて防止対策の確認と対応方法の周知を図り、施設内感染発生防止に努めました。
	全職員	32名	12月	認知症研修 ・関わり方についての共有と各ユニットで対象者をリストアップし、対応方法を学び深めることができました。

	全職員	25名	1月	事故防止研修 ・事故内容の事例件数などの集計結果を基に、検証と対策方法などの共有を図ることができました。
	全職員	27名	2月	防災研修 ・避難行動に関する職員の動きの確認と、避難方法について再確認することを目的とした研修内容の実施ができました。
	全職員	30名	3月	身体拘束・虐待防止研修 ・定期的実施した「虐待の芽」チェックリストの集計を基に、チェックの多い項目について施設内で統一した対応を検討することができました。

《事業所外研修 専門研修》

計画上の研修	対象者	参加人数	実施した内容・成果等
キャリアパス中堅研修	係長	1名	7月
リスクマネジメント研修	施設長	1名	10月
中堅職員スキルアップ研修	係長	1名	10月
苦情解決研修	施設長	1名	10月
口腔ケアサポート研修	一般職	3名	12月
権利擁護研修	施設長	1名	2月
			・上記の研修に対象者を参加させ自己研鑽に努めました。

② その他の取組事項

計画上の研修	対象者	参加人数	実施した内容・成果等
資格取得	契約職	1名	3月 初任者研修課程修了 ・本人の希望もあり、臨時職員を参加させ知識および技術の向上を図ることで今後の業務内容の質向上に繋がることが期待できると考えます。

【施設整備事業】

計画上の施設整備等	実施した内容等
施設周囲の除草作業委託	除草作業を業者へ委託し、年2回の除草作業を実施していただきました。
車椅子用体重計購入	使用していた車椅子用体重計が古くなったため新規購入を実施しました。
暖房機器の整備	冬期に空調機器の不具合が発生した場合の代替え用としてファンヒーター等を使用していましたが、台数不足と代替え機器の老朽にて新規にファンヒーターを2台購入いたしました。
ロボスーツの導入検証	平成29年度（10月）から労働環境改善として、腰痛予防対策のための介護ロボットを2年間レンタル契約し、使用し今後の導入について検証いたしました。長時間の同作業には適しておりましたが、日々の介護場面での使用については、装着時のわずらわしさ感からレンタル期間満了にて使用を終了いたしました。
居室内の手すりの増設	自立歩行支援として、計画的に固定式の手すりを各居室に設置しました。 年間20ヶ所を計画的に設置し、未実施分（残り48か所）は次年度以降に計画し増設する予定です。
立位保持支援バーの購入	入居者の行動範囲に合わせ移動可能な支援バーを設置することで、移動可能な範囲の拡大と転倒防止の目的にて3台の購入をいたしました。

【その他】

実施事項	実施した内容等
安心・安全な環境整備	防災計画に基づき防災訓練を年2回実施しました。 緊急連絡メールシステムでの配信、報告訓練を実施しました。災害時に備え平成30年度より3か年にて備蓄品3日分の確保を計画し、今年度2日目分の購入を実施しました。

2. 利用者状況の総括

年間の入所平均稼働率を97%として計画いたしました。年度当初から退所者数および入院日数が予想以上に多く、例年ですと月平均の退所数が2～3名に対し、平成31年度は月平均4名となり年間退所者数が51名、年間入院日数も前年度と比較し約530日増え1,590日あまりとなり稼働率に影響し、年間計画の97%に対し92%と大きく落ち込む結果となりました。

退所の内訳としては、死亡退所が8割・入院後の転院退所が2割、入院者は年間50名で内4割の方が30日以上入院となり入院が長期化するケースが増えました。入院の原因としては、持病の悪化(36件)等の体調不良や肺炎(10件)での入院が主ですが、転倒事故(4件)により入院となるケースもありました。ただ、感染症などが原因で入院になった例はなく、施設内での感染防止意識の高まりによるものではないかと感じております。

稼働率確保のために、新規入所者調整の日数をできる限り10日から2週間以内での調整計画にて新規入所調整を実施いたしました。先にも述べましたが年間の退所者が51名で、年間の入所調整に要した平均日数は15日と、若干目標調整日数に及びませんでしたが、退所が5名以上集中した月が年間4割あった中、計画の実施に向けて努力はできたと思います。(最短調整日数・翌日、最長調整日数38日)

【利用率(入所率)の状況表】

(単位:人、%)

定員	計画人数	計画利用率	実績人数	実績利用率	備考
90床/日 (32,850)	87床/日 (31,755)	96.7	30,393	92.5	

*実績人数は年間延べ入所者数、利用率は年平均。

【利用者(入所者)構成の状況表】

(単位:人、%)

構成 (介護度別)	計画		実績		備考
	人数	構成割合	人数	構成割合	
要支援1					
要支援2					
要介護1					
要介護2	0	0	0	0	
要介護3	35	39.8	40	44.4	
要介護4	33	37.5	27	30.0	
要介護5	20	22.7	23	25.6	
計	88	100.0	90	100.0	

*実績は3月末の件数。

3. 要員（人員）体制の総括

100床回復に向けた人員体制を計画し、職員確保に取り組みましたが、思うような人員確保には至りませんでした。

平成31年度の採用人員の内訳は臨時介護職員1名、パート職員4名（看護2名・介護2名）計5名の新規採用を迎えましたが、本来必要としている夜勤ができる職員の採用はできませんでした。

採用にあったては、職員からの情報や役員からの紹介などから採用に繋げることができました。しかし、本年度全体で本人の都合や体調不良等で正規職員3名、臨時職員1名、パート職員2名の退職があり、内介護職の退職者が4名（うち正規職員1名・契約職員1名・パート職員2名）ありました。

フルタイム勤務ができる職員の確保は現状厳しい状況にあるため、今後はフルタイム勤務ができる職員を育て増やすことに目標において取り組む必要があると感じています。

【要員状況表】

（単位：人、％）

職 種	計 画		実 績		
	人 数	常勤換算 数	人 数	常勤換算 数	計画に対する 充足率
施設長	1	1.0	1	1.0	100.0
生活相談員	2	1.5	2	1.5	100.0
介護支援専門員	2	1.5	2	1.5	100.0
看護職員	6	4.9	7	5.5	112.2
介護職員	62	55.77	61	49.0	87.9
理学療法士	2	2.0	2	2.0	100.0
事務職員	2	2.0	1	1.0	50.0
管理栄養士	1	1.0	1	1.0	100.0
栄養士	1	1.0	1	1.0	100.0
調理員	9	7.0	9	7.0	100.0
医師（嘱託医）	2	0.11	2	0.11	100.0
警備員	3	1.8	3	1.8	100.0
環境整備員	6	2.7	6	2.7	100.0
計	99	82.28	98	75.11	91.3

4. 苦情解決（要望含む）について

平成31年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

【苦情事例1】

発生日：令和元年8月5日

申立者：入居者本人

苦情内容：「怖い男の人がいて肩をゆすられたり無理やり押されたりされた。」

処理結果：相談員が本人に詳しく話を聞き、その後ユニット内で内容について検討する。入居者の方は不安などから悪く捉えたりすることもあるため、「怖い」とイメージを持たれないような優しく丁寧な対応に日々心がける必要がある。安心できる環境作りのために居室内の環境を改善する。

第三者委員の関与：なし。（解決結果を報告済）

【苦情事例2】

発生日：令和元年8月19日～23日の間

申立者：担当ケアマネ（家族より、大げさにしてほしくない、名前を出さないで。）

苦情内容：職員が居室へ食事を運んだ際に「くそったれ」と言われ、その後居室に入る際に拝むような恰好をされ嫌だった。

処理結果：リーダー会議で報告し、ユニット会議にて検討する。実際にどのような言い方をしたのか？聞き取り違いなのか分からないが、暴言はあってはならないこと言葉遣いや対応については丁寧に、誤解される行動は慎む、現場の職員同士で言葉遣いや行動を確認し合うことを確認する。

第三者委員の関与：なし。（解決結果を報告済）

5. 邑南町へ提出した桃源の家における主な虐待再発防止対策の実施報告

<虐待に関する研修を実施する>

- ・11月と3月に研修を実施しました。(11月は外部講師を招いて行いました。)

<虐待の芽チェックリストを定期に実施する>

- ・奇数月に実施し自己の振り返りを行うことで、虐待に繋がる可能性がある行動の認識の意識付けを行い、集計結果を基に各ユニットで改善項目(行動)について検討し実施することを継続しています。

<虐待防止マニュアルの見直しを行う>

- ・見直しを実施しました。

<その他、認知症・介護技術・接遇に関する研修を実施する>

- ・それぞれの研修を以下のように実施しました。

認知症：12月実施

介護技術：3月実施

接遇：1月実施(DVD視聴にて)

<第三者評価を受審する>

- ・令和2年度に実施予定です。

以上

《老人短期入所事業 特別養護老人ホーム桃源の家事業報告》

1. 事業総括

平成31年度は、年度当初から稼働率が目標値または目標値を上回る状況が続き、年間計画平均稼働率80%に対し、実績年間稼働率が81%となりほぼ計画通りの実績となりました。

特に、9月及び11月は月間稼働率が90%を超える利用があり、理由として定期利用者の利用継続が順調であったことが挙げられます。さらに短期入所本来の利用目的である急な利用依頼にもできるだけ対応することができたことが、稼働率アップに繋がったものと思われます。

在宅生活を継続する上での短期入所利用の必要性をしっかりと持ち、今後も満足して利用していただけるサービスの提供に努め、定期的な利用継続と様々な利用ニーズに対応できる環境を整えて運営していきます。

以下については、特別養護老人ホーム桃源の家事業と同じになっています。

- (1) サービス事業
- (2) 人財育成事業
- (3) 施設整備事業
- (4) その他

2. 利用者状況の総括

事業総括のとおりです。なお、利用率の状況等は以下のとおりとなりました。

【利用率（入所率）の状況表】

(単位：人、%)

定員		計画人数	計画利用率	実績人数	実績利用率	備考
10床/日 (3,650)		8床/日 (2,920)	80.0	3,010	82.5	

*実績人数は年間延べ利用者数。

【利用者（入所者）構成の状況表】

(単位：人、%)

構成 (介護度別)	計画		実績		備考
	人数	構成割合	人数	構成割合	
要支援1					
要支援2	3	1.3	3	1.2	
要介護1	25	10.4	33	13.1	
要介護2	49	20.4	49	19.5	
要介護3	97	40.4	134	53.4	
要介護4	49	20.4	29	11.6	
要介護5	17	7.1	3	1.2	
計	240	100.0	251	100.0	

*実績人数は年間の平均人数。

3. 要員（人員）体制の総括

育休明けから正規職員1名が加わり、また契約職員やパート職員の協力および場合により他職種が半日介護の現場に入ることによって勤務シフトを組み対応することができました。

年度途中に、希望により1名契約職からパート職へ雇用変更を行うことになりましたが、隣接ユニットとの職員協力がより深まったことで、変更に伴う勤務調整や急な職員の休みにも対応することができました。

(単位:人、%)

職 種	計 画		実 績		
	人 数	常勤換算数	人 数	常勤換算数	計画に対する 充足率
施設長			兼務		
生活相談員			兼務		
介護支援専門員			兼務		
看護職員			兼務		
介護職員	8	4.8	8	4.6	95.8
機能訓練指導員 理学・作業療法士			兼務		
事務職員			兼務		
管理栄養士			兼務		
栄養士			兼務		
調理員	1	1.0	1	1.0	100.0
医師					
警備員			兼務		
環境・通院他			兼務		
計	9	5.8	9	5.6	96.6

* 兼務は特別養護老人ホーム桃源の家事業で算定

以上

《ひだまりサロン事業報告》

1. 事業総括

今年度は、地域で活動をされている方々からの依頼はありませんでしたが、小学校から授業の一環で「姿勢」についての内容で講師依頼が2件あり、学校同士で情報交換をされ同内容のプログラムを実施いたしました。1時間程度ではありましたが、生徒および先生方も大変喜んで頂くことができました。

今後も、活動内容に対するサポートをできる限り実施していきたいと思えます。

【サービス事業】

計画上の取組事項	実施した内容・成果等
地域サロン支援事業	活動の場への職員派遣 ・市木小学校と日貫小学校から依頼があり職員を派遣し、授業の一環で活動をサポートいたしました。

以 上